

多様な自然と文化を守る

1989年、英国人歌手ステイキングがアマソンの熱帯雨林保護を訴えて世界を回ったキャンペーンツアーで、来日時の受け入れ機関として設立された。現在はブラジルのアマゾン川支流にあるシングー国立公園で自然保護や先住民の生活支援に取り組む。アマソンの熱帯雨林は近年、農地や牧草地として開墾され、消失が進む。国立公園内で暮らす18部族、約2万人のインディオと呼ばれる先住民の伝統的な生活も変化を迫られているという。

代表の南研子さん(66)はスタッフと共に毎年現地を訪れ、約2カ月間先住民と生活し、必要な支援を探る。20

NPO法人「熱帯森林保護団体」

(東京都世田谷区)

10年からは、多種多様な植物に恵まれたアマソンの特性を生かし、養蜂事業に取り組んでいる。採取される蜂蜜は先住民の重要な栄養源だ。また、経済的な自立を支えるよう工芸品の制作、芋や果物の畑作も始めた。近年は伐採の影響による自然発火が相次いだため、消防と協力して防火事業にも参加している。南さんは活動への理解を広げようと、日本各地で講演し、広島や新潟など4カ所では共感した市民の手で支部ができた。南さんは「一人一人の自然を守るという意識が、アマソンの再生につながる」と話す。



①養蜂事業で採れた蜂蜜をこす作業をする先住民の男性 ②蜂蜜を容器に小分けする ③新たな事業の進め方を住民と話し合う南研子代表(左端) ④いずれもブラジルのシングー国立公園で、熱帯森林保護団体提供

第3回毎日地球未来賞

地球規模の課題である食料・水・環境の問題解決に取り組む個人や団体を顕彰する「第3回毎日地球未来賞」(毎日新聞社主催、内閣府など後援、クボタ協賛)に東京都世田谷区のNPO法人「熱帯森林保護団体」が選ばれ、このほど大阪市内で表彰された。クボタ賞の有限会社「土遊野」(富山市)と一般社団法人「ReRoots」(仙台市)、次世代応援賞の山陽女子中学・高校地歴部(岡山市)と共に、活動内容を紹介する。

【遠藤孝康、青山郁子、平川義之】

第3回 毎日地球未来賞 表彰式 受賞記念講演会



表彰式で記念撮影に納まる(前列左から)「土遊野」取締役の橋本順子さん、「熱帯森林保護団体」代表の南研子さん、山陽女子中学・高校地歴部の井上貴司教諭と奥山舞子さん。後列は同部員ら—大阪市北区で2月16日、金澤稔撮影